

モツゴ

Pseudorasbora parva

コイ科



モツゴ

名前の由来

「モツ」は脂っこいことで、「ゴ」は魚の意味だという。高知での地方名を和名としたという。漢字名：持子

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

特定種

該当なし。

形態的特徴

全長約8cm、口は上向きで小さい。側線は完全で体側の中央を縦走し、これに沿うように吻端から尾ビレの基部まで黒い縦条が見られる。



モツゴ

類似種と見分け方

シナイモツゴ。

シナイモツゴの体側にある側線は、胸ビレあたりまでしかないのに対し、モツゴの側線は尾ビレの付け根まで伸びる。

一生

本州では4～8月に産卵。オスメスとも多くは1年で成熟する。

寿命は不明。

生息環境・分布

中流から下流域の流れの穏やかな場所。岸沿いの泥底の淀みに多く、水草や藻の中にも多い。特に冬はヨシの枯れた中などに入るといふ。

分布：中国、朝鮮半島、台湾などに分布する。

国内では日本全国に分布。(かつては関東以西の本州、四国、九州。コイなどに混じって放流されたため広がったという)

北海道では大沼、石狩古川や苫小牧、十勝などの湿地帯の沼や小さな川に生息。(元もと北海道にいたかは不明)

十勝の河川に広く分布するが、流れの緩やかな下流域や河跡湖や沼に生息する。畑脇の明渠や堤防脇の堤内排水路にも生息する。

生活サイクル

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|--|
| 産卵期 | | | | ■ | | | | | | | | | |
| 孵化期 | | | | ■ | | | | | | | | | |
| 幼魚期 | ■ | | | | | ■ | | | | | | | |
| 成魚期 | | | | ■ | | | | | | | | | |

産卵

寿命は不明

食性

水草や大型藻類に付着する動・植物、浮遊動物、底生動物。
成魚は主にユスリカの幼虫を採るといふ。

繁殖生態

産卵期は4～8月（本州）。産卵場所は水深50cmから1mのところで、ヨシなどの茎や石の表面。産卵期のオスは全身が著しく黒くなり、黒い縦条は消え、口の周りに追星が見られる。オスは産卵場所を数日かけて清掃し、侵入者を追い払うようになる。メスが近づくとオスは体を震わせて寄り添い、メスを産卵床に導く。オスはメスに乗るような形で体を押しつけ産卵をおこなう。オスは産卵が終わっても卵から離れず守り、別のメスを誘ってさらに産卵をおこなう。1産卵期における産卵回数は多く、10回を数えるこ

ともあるという。産卵数は300～550個を数回に分けて産卵。卵は淡い黄色の粘着卵でひも状に産み付けられる。20℃で8日、18℃で12日あまりでふ化。

他生物との関わり

シナイモツゴ・ウシモツゴの生息地へのモツゴの侵入により、前2者の生息環境がモツゴに奪われるかたちになっている。

興味深い話

- オスが産卵後、ふ化まで子守をすることがある。
- 食用にされるがあまりうまくない、いや癖はあるが付け焼きにすればうまい、と評価が分かれる。焼くか干すかして保存し、甘露煮や佃煮にする。かつて関東地方では焼いて鶏の餌にしたという。
- 全国的に普通に見られる魚なため地方名が多い。ヤナギベ（秋田県）、ヤナギバヤ（群馬県）、ヤナギザコ（茨城県）、ボテ（新潟県）、アブラフナ（長野県）、チョウチ

配慮事項

水生植物や藻の中で生息する性質をもっている。産卵床としてヨシの茎や石を必要とする。汚水や環境の変化に強い（COD10mg/l程度の湖にも生息）。モツゴの侵入（移入）により、シナイモツゴの生息域が奪われて、多くの場所で絶滅している。

ンモロコ、ヨシツツキ（滋賀県）、モズゴ（高知県）、ダゴバエ（九州・筑後川）、ロシヤハエ（熊本県）など。



モツゴ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類

参考文献

- 「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996
- 「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984
- 「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997
- 「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦、保育社、1989
- 「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「原色日本淡水魚類図鑑」宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、保育社、1963（1976全改訂新版）